

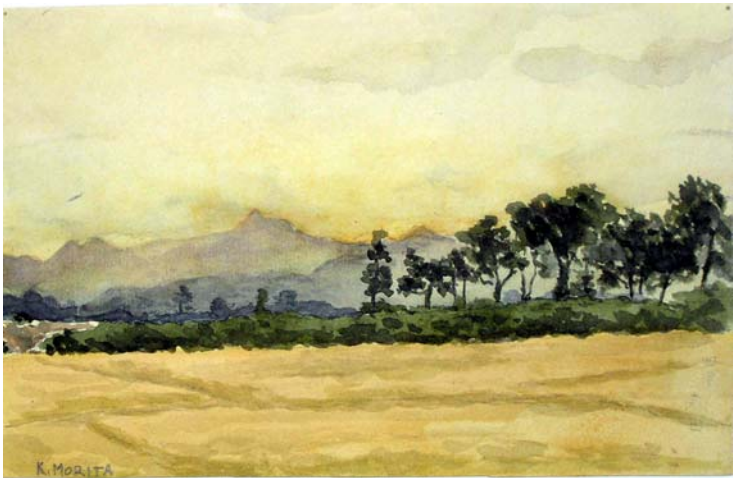
区分	住民基本台帳	外国人登録	合計	
人口	男	29,854	1,068	30,922
	女	29,206	1,209	30,415
	計	59,060	2,277	61,337
世帯数	27,343	1,178	28,521	

国民保護計画への意見を募集	2面
永田橋架け替え工事	3面
高齢者の介護予防を支援	4面
あき家都営住宅入居者募集	5面
体育の日は体育館を無料開放	7面
保健ガイド	8面

発行/福生市 編集/企画財政部秘書広報課 〒197-8501 福生市本町5 ☎042-551-1511 (市役所代表)

福生市のホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

福生市には、明治・昭和に市内を描いた水彩画の作品が残されています。そこにはなつかしさや時世をうかがい知ることのできる風景があります。展示には風景画と同じ場所の現在の写真を添えます。秋のひととき風景画から時の流れを見つめてみませんか。



浩一の日記から 明治44年11月
井川君が来て色々構図のことについて批評してくれたので、その通り直した。僕はこの頃美術を研究したくてたまらない。僕は農科か植物科に行くことに決めた。苦しんでもしょうがない。僕は家で許すなら画家になりたいが、家の母くらい解らぬ者はいないから、それはとてもできない。

明治期の風景画の作者 森田浩一

熊川村玉川堤防の夕景

熊川村で生まれ育った森田浩一は小学生の頃から図画を得意としました。

森田は熊川村の森田製糸所経営者の退蔵と美知子の長男として明治24年(1891)に生まれました。

旧制中学生時代の日記には青梅、御嶽、五日市、近くでは羽村、拜島、二宮あたりに出向いて、たびたび風景を描いていたことが記されています。高校に入ってから「一高画会」に所属し、会の展覧会にも精力的に出品していました。展示作品はこの頃の作品です。

森田は大学時代勉学にはげみ、植物学の研究者として前途有望な青年でした。しかし大正9年(1920)留学先のアメリカで、当時、世界中で流行していたスペイン風邪にかかり急逝しました。



玉川上水の初秋

福生

明治・昭和

9月30日(土)から11月26日(日)
問合せ郷土資料室 ☎530・1120
※月曜休館(月曜日が祝日の場合火曜日休館)

郷土資料室企画展

風の

風景画



国道16号線

昭和期の風景画

画家宮本雅夫は昭和30年代福生町に住み、当時の多摩地域の風景を明るく軽やかなタッチで描いています。この頃の福生は戦後の窮乏と混乱期を乗り越え、新しい町づくりに歩みだした時期です。

昭和30年代は熊川団地が建設され入居が始まりました。福生、羽村、青梅間バス路線も開通しています。人口も30年代の10年間で約1万8千人から2万9千人に増え、第四小学校開校やすみれ保育園が開園されています。また文化連盟が発足、町民美術展なども開催するようになりました。



本町いなげや付近



福生駅